

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 住民組織の意識改革を行いながら、女性や若者が発言・活躍できる場を作る
- 広域コミュニティ組織と連携・協力しながら、自治会組織役員の負担軽減を実現する
- 単位自治会を超えた複数自治会での活動を模索する
- SNSなどを活用し、新しい情報発信のあり方を検討していく

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	6	24%
取り組まなかった	19	76%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・人口減少や高齢化が進んでいることから隣組の再編成及び役員構成の見直し等を検討し、役員選出に関する規約の改正を行った。
- ・役員構成について、若い年齢層を厚くすることで自治会活動への意識向上に繋がった。また、女性部の活動や冬季健康教室等の実施により、若い世代の参加を促すことができた。
- ・自治会行事に全世帯参加することで自治会を持続している。「共に生きる」ことで家と家、自治会を繋いでいる。
- ・自治会長による「自治会だより」の発行により、住民間での情報共有を図ることができた。
- ・公民館修理のための積立ての可能性について話し合った。

その他

- ・現状は限界集落を乗り越えて消滅するのではと本気で考えてしまう。

地域課題② 住民による魅力的な事業づくり

★具体的取組の例

- 幅広い年代が参加しやすい事業の開催
- 単位自治会を超えた複数自治会での参加しやすい事業を開催する
- 生涯学習活動において、広域コミュニティ組織・地区公民館連絡協議会と連携した事業、単位自治会でできる事業のすみ分けを考えていく

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	20%
取り組まなかった	20	80%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・小学生から高齢者までを対象としたグラウンドゴルフ大会を地区内の公園で開催し、終了後に収穫感謝祭を行った。
- ・広域コミュニティ組織の支援によりサロンを開催することで、高齢者が集まり、話し合う場を設けることができた。
- ・公園遊具（ブランコ、すべり台、鉄棒）の錆びている箇所に塗装修繕を行い、子どもたちが安全に遊べるようにした。

その他

- ・現在実施している事業以上の実施には無理がある。

地域課題③ 安全安心な地域づくりのための組織づくり

★具体的取組の例

- 防災拠点施設となる広域コミュニティ組織との連携の強化
- 社会福祉協議会等、他団体との協力による見守り活動や情報共有の継続と充実
- 地域の消防団や行政と連携し、有事の際には地域に住む人たちが協力しあえる仕組みづくり
- 空き家の所有者の把握と、適正管理の指導や助言

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	52%
取り組まなかった	12	48%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・昨年度策定した自主防災組織計画に沿った安全安心な地域づくりを行った。
- ・役員を対象に地域防災アドバイザーを講師に迎え、作成中の自主防災計画案に助言をいただいた。
- ・自主防災計画を作成した。
- ・新執行体制のもと自治消防組織図を作成し、全戸配布した。
- ・消火栓等の集落の安全点検や防災訓練、各家庭に火災予防チラシを訪問配布する集落内巡視点検を行った。
- ・集落の安全点検（消火栓・危険箇所点検、防火用水堀の網掛け作業）、防災訓練（消火栓放水訓練）、集落内巡視点検（各家庭に火災予防チラシを訪問配布）を行い、安全安心な地域づくりを推進した。
- ・消防団と連携し、消火栓、貯水槽の確認・点検を行った。
- ・自主防災組織で消火栓用ホースの更新を行った。
- ・防火水槽の泥上げや、冬期間外していたカーブミラーの農道への取り付けを行った。また、水害防止のための側溝の泥上げ掃除を行った。
- ・市及び自治振興会主催の防災研修会に参加し、研修内容を自治会内で共有して自主防災意識の向上を図った。
- ・防災アドバイザー派遣による出前講座を活用して防災学習会を開催した。公民館が避難所となっていることから、今後防災対策・計画の検討を行っていきたい。
- ・自主防災活動として初めて避難訓練（水害訓練）を行い、防災意識の向上を図った。
- ・地域内空き家の見回りを実施した。

地域課題④ 単位自治組織の財産管理や環境整備事業の見直し

★具体的取組の例

- 将来を見据えた会費のあり方の検討
- 隣接する自治会との共同作業の検討
- 土地や建物の財産管理や共同作業の見直し

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	48%
取り組まなかった	13	52%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コロナ禍により自治会事業を見直し、会費を減額とした。
- ・神社・寺院補修や災害時補修のための積立を継続している。
- ・公民館の火災保険の補償内容について、見直しを行った。
- ・公民館トイレを洋式化した。
- ・補助事業の活用により、地域内林道や農道の砂利敷き、コンクリート舗装整備を行った。
- ・次年度の実施に向けた公民館屋根改修工事の実施・設計について話し合い、補助金の活用により進めることとした。
- ・公民館屋根の経年劣化により、塗装工事費用の積立てを新設し、次年度に実施予定とした。
- ・高齢化により和式の公民館トイレが使いづらいという要望があり、来年度中に洋式化する予定とした。
- ・公民館屋根を落雪式に変更するための検討を行い、見積りや設計を依頼した。
- ・平成25年度から27年度までの3カ年で市補助事業による地域づくり協議会を設置し、川岸への桜の植樹や鉢山跡地への看板設置等整備、誘客事業実施による地域づくり、除雪機の導入による玄関前の除雪協力事業を実施してきた。これらの事業の維持管理を継続して行っている。
- ・自治会役員と消防団員とで用水掘の泥上げを行った。
- ・公民館や消防ポンプ小屋、ゴミステーションの雪下ろしを自治会事業として行った。
- ・地域内公園の草刈りや自治会所有の公園内物置の雪下ろしをこまめに行い、いつでも利用可能な利用環境の向上を図った。

地域課題⑤ 希薄化した連帯感の再構築

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織が連携した活動の実施
- 単位自治組織を広域コミュニティ組織が支援する仕組みづくり
- 単位自治組織でできることはできるだけ単位自治組織ですするという自覚を持つ場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	11	44%
取り組まなかった	14	56%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コロナ禍でなかなか交流の機会が持てないことから、グラウンドゴルフ大会や輪投げ大会、新年会を工夫して実施し、交流や親睦を深めた。
- ・グラウンドゴルフ大会を毎年継続開催することで地域の連帯感の構築を図っている。
- ・例年行っていた祭事や行事について、新型コロナウイルス感染防止のため直会を行わずに工夫して開催し、連帯感の維持に努めた。
- ・若い世代の連携を図ることを目的に広域コミュニティ主催の軽スポーツ大会に地域で参加した。
- ・コロナ禍で多くの行事を中止としていたが、昨年できなかった河川清掃等を実施することができ、多くの参加により自治会活動の意識向上が図られた。
- ・地域全体で道普請、道薙ぎを実施した。
- ・毎月24日に集落費の集金をしながら様々な地域課題を議論したり、お互いの近況報告等をしたりする情報交換の場を設けることで、情報共有や連帯感の構築を図っている。
- ・毎月集会（寄合）を開催し、情報交換・共有を図っている。
- ・集落の7割以上が高齢者世帯であり、また集落の約半数が独居世帯であることから、全戸、全員で声掛けと助け合いをしなければならない中で、自治会行事をはじめとして連帯感は構築されている。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・集落内の人口が少なく、高齢化が進んでいるため今後が不安である。
- ・転出等により自治会構成員が減少している。
- ・地域内の高齢化や人口減少により、これまで自治会で請け負っていた公共設備の管理や市道の草刈り業務等について、対応できないことが増えている。
- ・役員の人材確保が困難なため、自治会運営や事業のあり方の見直し、検討が必要である。
- ・高齢化により役員のなり手不足が今後の課題である。集落単位ではなく地区単位で運営した方が良いのではとの声もある。
- ・少子高齢化が進み、様々な自治会行事や共同作業の実施に支障をきたしている。また、自治会行事に積極的に参加する意識が希薄化し、自治会に対する無関心が心配される。
- ・高齢化により隣組単位での活動維持が困難な状況であり、隣組再編成等の検討も必要と考える。
- ・地域内に重要な生活用水路があるが、相当年数経過していることから全体の調査や修繕等の整備計画が必要である。
- ・地域内の施設管理、建物の老朽化や高齢化が課題である。
- ・地域内の空き家について、損傷の激しい建物は野生動物の棲み処となっているものもあるため環境衛生面からも早期の対策が必要である。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・転入による自治会構成員の増を目指し取り組むべき事業や先進地事例等の学習会への参加。
- ・自主防災計画内容の情報共有により、防災意識を高め、防災訓練を実施する。
- ・大きな災害に備えた防災訓練を実施し、個々の役割を明確にし、防災意識を向上させたい。
- ・若い人たちが自治会事業に積極的に参加するような方策を模索している。
- ・汎用的なアプリの活用により、地域力を上げ、住みやすい地域にしていきたい。
- ・お宮、公民館等の草刈りや雪下ろし等の維持管理について、現段階でも苦勞している。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、計画した事業が実施できず、住民同士の交流や連帯感の構築が難しい。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、人と人との間の取り方に近くて遠い空間を感じる。
- ・今後の高齢化の進行により、事業のあり方を検討した方がよい。
- ・集落内の小学生が1名ということで、少子化を一段と実感している。
- ・今年度はコロナ感染症により地域活動が全て中止となり、住民同士の交流ができない状況であった。
- ・山間部は昔から伝統的な結(ゆい)の精神が根強いいため、お互い様の気持ちで助け合っている。

地域課題① 住民理解の促進と単位自治組織への支援

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織の活動意義と活動内容等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信
- 単位自治組織で実施が困難となっている活動・研修への協力と支援
- 子どもの頃から地域固有の自然や歴史、文化、伝統、産業などへの理解を促すような機会づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・敬老会や地区運動会の持ち方などの地域課題について、自治会長や地区公民館連絡協議会との話し合いによる相互理解のもとで進めた。
- ・自治会との合同会議の開催により事業説明等を丁寧に行い、相互理解のもと事業を実施することで地域課題解決に努めた。
- ・毎月発行するコミセンだよりのタイトルに住民の声を採用し、読んでもらえる工夫をしながら活動内容の掲載による住民理解を図った。
- ・自主防災会活動の支援として避難所開設についての防災研修会を開催した。

地域課題② 人材の確保に向けた検討

★具体的取組の例

- 人と人とのつながりができるような事業や研修会の実施
- 地元講師の発掘と、講師を活かした事業の実施
- 若い世代の声を地域に活かすため、性別や年代を超えた語り合える場を作る
- 生涯学習推進員を巻き込み、単位自治組織と広域コミュニティ組織の連携を強める事業を実施する
- 意欲ある生涯学習推進員の掘り起こしを進め、研修の充実を図る

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・東北公益文科大学地域共創コーディネーターとの連携による若い世代の語り合いの場の企画・運営や、若者をターゲットにした趣味講座等の開催により、若者同士のネットワークづくりを図った。
- ・観光やインバウンド支援を視野に入れ、新たな地域発信を目標とした英会話教室を開催した。
- ・地元講師を起用した生け花教室や中学生の夏休み・冬休み塾を開催した。
- ・生涯学習推進員が率先してグラウンドゴルフのゴール常設やグラウンド整備を行うことで、いつでも気軽にグラウンドゴルフができる環境を整備することができた。
- ・敬老会研修会等の開催やクリスマス忘年交流会の開催により、地域住民の交流や親睦を深めた。

地域課題③ 希薄化した連帯感の再構築

★具体的取組の例

- 朝日地域自治振興会連絡協議会（広域コミュニティ組織の連合組織）が主体となって事業を実施できるような仕組みづくり
- 子どもから高齢者まで世代を超えて集える場づくり
- 地域が学校に関わるコミュニティスクールへの協力・支援
- 地域と学校の連携・協働による地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・ コミセン利用者の多くが高齢層となっていることから、新たな世代の利用者層の開拓や子どもを含む子育て世代が気軽に利用できる情報交換の場として、親子の繋がりを大切にすることを目的とした趣味講座（ケーキづくり）を開催した。
- ・ 高齢者の要望に応えたパソコン教室を開催した。
- ・ 中学生以上を対象としたソフトバレーボール大会や年齢に関係なく参加を募ったボッチャ大会などの各種軽スポーツ大会の開催により、世代間交流や連帯感の構築を図った。
- ・ 自治会にサロンの開催を促し、自治振興会が事務処理を支援することで、自治会によるサロンの定期開催が実現し、住民間の意思疎通や交流が深まった。
- ・ 子供会育成会との共同事業（星空観察・花火大会）の開催や地域スポーツ少年団、敬老会の参加による大ホール（体育館）ボランティア清掃の実施により、地域内の世代間交流・親睦を図った。
- ・ 中学校と連携した週末塾を開催することで、生徒の学びの機会の充実を図った。

地域課題④ 安全安心な地域づくりのための組織づくり

★具体的取組の例

- 単位自治組織と情報を共有する仕組みづくり
- 自主防災会と連携を強化し、災害の避難訓練や研修会の実施
- 空き家の実態把握と適正管理の指導や助言
- 社会福祉協議会等他団体との協力による高齢者や支援が必要な人に対する見守り活動等の支援
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・ 自主防災会活動の支援として避難所開設についての防災研修会を開催した。
- ・ 敬老会の生涯学習セミナーとして、市防災担当職員を講師に招き、防災研修を行うことで防災意識の向上を図った。
- ・ 克雪対策事業として、地域内互助の仕組みによるおたがい様除雪支援活動を行った。（支援者8名、要支援者12名）
- ・ 地域版「見守りの心得」を作成し地域に配布することで、孤独死の防止や緩やかな見守りによる支え合いの意識の醸成に努めた。
- ・ 住宅地図に高齢者世帯情報（高齢世帯、独居世帯等の区分・連絡先）を追加して独自の防災マップを作成し、避難所となる各公民館に配置した。
- ・ 独居高齢者の緊急連絡網や近隣住民で緩やかに見守るネットワークの構築を検討中である。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・若い世代の活動が停滞しているように思う。また、女性が地域で活躍する場がないように思うが、本人たちが望んでいるかは分からない。
- ・参加者が少なくなっている敬老会祝賀会の開催方法が課題である。
- ・コロナ禍により従来の競技主体での運動会の開催は困難であり、子供の数が激減している中での地区運動会のあり方が課題である。
- ・芸術・文化・食等地域の伝統文化の継承がしにくい状況になっている。
- ・運転免許証返納者に対する買物支援・代行の組織を立ち上げる時期にきているのではないか。
- ・住民自治組織を広域の地区として考える必要があるのではと思う。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・地域の伝統文化を調べ再確認するとともに継承に向けた体制の整備。
- ・40代の若者から入ってもらいできる事業等を組めないか模索していきたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・地域コミュニティの役割とは何か。文書では示されており、分かっているつもりであるが、あまりに広範囲で悩んでいる。
- ・地域ビジョンの策定に向けて自治会ごとのワークショップを検討中であるが、人口減により一人何役も担う中での度重なる会合の依頼は非常に心苦しいものがある。地域ビジョンを策定することによるメリット、特に可視化できるメリットを提示していただければ、我がこととして真剣に取り組めるのではないかと思う。今ここに生活している人たちが各々の幸せの価値観のもとで心豊かに生きることこそが大事であり、あえて共通見解のビジョンが必要なのか考えてしまう。